平成30年度 授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	ゼミナールⅢ			授業コード	E002698
担当教員名	松下　乾次			科目ナンバリングコード	E31203
配当学年	3	開講期	通年		
必修・選択区分	必修	単位数	4		
履修上の注意または履修条件	特になし。				
受講心得	出席が必修です。課題(発表・レポート)をしっかり達成してください。遅刻、居眠り等課題に集中していない場合は、出席とは見なしません。				
教科書	谷本寛治『CSR　企業と社会を考える』(NTT出版)				
参考文献及び指定図書	授業で指示します。				
関連科目	3年生ではとくに法律の関連科目をしっかり履修してください。				

授業の目的	企業・組織の社会的責任を学習します。企業、官庁その他様々な組織における不祥事が連日報道されています。食の安全、製品の欠陥、建物の欠陥、さらに行政組織では年金のいい加減な処理など。明らかな法令違反は問題外です。コンプライアンスは必須です。いまではさらに、社会貢献、社会的責任(CSR)が企業その他組織には求められています。企業は株主・顧客でだけでなく、消費者、地域住民そして従業員にも気を配ることが求められます。ヒト・モノ・カネを集中して効率よく利潤を追求するだけでなく、あらたな社会の創造を企業やその他様々な組織は求められているのです。19世紀、20世紀と発展してきた産業社会は、テロ、環境破壊、そして経済金融危機という巨大なリスクに直面しています。また、グローバル化・高度情報化は、特に現代企業に新たん変革を求めています。これら、現代の社会経済の状況を踏まえ、企業そして多様な組織がどのような課題を持ち、新たに変わろうとしているかを学習していきます。 企業の課題を、同時に地方創生と合わせて考えてもらう。
授業の概要	ゼミナールⅢでは、とくに現代(ポスト産業資本主義)の企業・会社のあり方・ガバナンスについて、そして、後期を中心に、企業の社会的責任(CSR)について学習していきます。

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
前　　期 第1週:　ゼミナールⅢの課題についてのガイダンス 履修指導、ゼミナールⅢ(通年)の課題についての説明。学習目的について、就職についての課題を確認し、各自で今年度(あるいは前期)の目標を立てる。	今一度、戦後日本経済、とくに最近の経済金融について整理する。
第３週 : 2008年金融危機後の日本経済・アベノミクスの評価。 2008年金融危機から2018年の現在の経済・金融の問題を見る。アベノミクスの政策の成果を検証する。 **第4週:ポスト産業資本主義における会社のあり方** 今の時代はどのような時代か。ポスト産業資本主義の特徴を学習する。 グローバル化、インターネット社会、消費者主権など現代社会の大きな変化の中で、会社はどう機能しているか。現代の会社の変容を見ていく。地方の中小企業の可能性も見ていく。業界研究も同時に行っていく。岩井克人『会社はこれからどうなるか』等を参考。	現在の金融・経済の問題を各自でノートに整理する。 配付資料を熟読し、予習復習する(1h2h)。ゼミナールの後、ポイントをノートに整理する。

第５週：ポスト産業資本主義における会社のあり方 企業における知識資産、株主主権の主張とその敗北について、考える。現代のコーポレート・ガバナンスについても、見ていく。 **第6週： ポスト産業資本主義における会社のあり方** 現代の企業価値、商品としての情報の意味、企業文化について学習する。	配付資料を熟読し、予習復習する（1h2h）。ゼミナールの後、ポイントをノートに整理する。
第７週：ポスト産業資本主義における会社のあり方 人的資源のネットワークとしての現代企業の特徴。現代の若者の雇用問題を扱う。 **第8週：ポスト産業資本主義における会社のあり方・現代の企業の課題** 企業の課題として、コンプライアンス、コーポレートガバナンスそしてCSRに関係して、	配付資料を熟読し、予習復習する（1h2h）。ゼミナールの後、ポイントをノートに整理する。
第９週：企業の社会的責任（CSR） 教科書谷本寛治『CSR　企業と社会を考える』（NTT出版）を教材として、担当者に該当箇所をまとめて報告してもらいながら、全員でCSRの基本を学習していく。卒業研究の基本学習である。しっかり読み込むことが求められる。最初は、CSRおよび教材の概要を見る。	教材を熟読し、予習復習する（1h2h）。ゼミナールの後、ポイントをノートに整理する。
第11週：企業の社会的責任（CSR） 1章　2. 日本企業とステイクホルダーとの関係　　ステイクホルダーとの関係から、日本企業社会の変化を見ていく。 **第12週：　企業の社会的責任（CSR）**	教材を熟読し、予習復習する（1h2h）。ゼミナールの後、ポイントをノートに整理する。
第13週：企業の社会的責任（CSR） 1章　4. 企業価値をはかる新しい「モノサシ」 情報化社会における企業価値の変化を見ていく。そのなかでの、企業の社会的評価、社会から評価される企業を考える。 **第14週：企業の社会的責任（CSR）**	教材を熟読し、予習復習する（1h2h）。ゼミナールの後、ポイントをノートに整理する。
第15週：まとめ 1章のまとめと2章の概要。 面談：各自の自己評価に基づいて個人面談。	夏季休暇中、1章をまとめ、コメントを付して、レポートとして提出。
後　　期 第16週：後期履修指導と面談。前期の課題の復習。 後期の課題についてのガイダンス。面談。レポートの提出。 **第17週：企業の社会的責任（CSR）** 夏季休暇中に学習したことについて、意見を出し議論する。その成果をノートに整理	教材を熟読し、予習復習する（1h2h）。ゼミナールの後、ポイントをノートに整理する。
第18週：　企業の社会的責任（CSR）について 第2章　社会の中の企業　1. 社会的に責任ある企業とは **第19週：　企業の社会的責任（CSR）** 第2章　2. CSRの三つの次元	教材を熟読し、予習復習する（1h2h）。ゼミナールの後、ポイントをノートに整理する。

第20週：企業の社会的責任（CSR） 第2章　3. CSRへの潮流 **第21週：　企業の社会的責任（CSR）** 第2章　4. 企業行動基準	教材を熟読し、予習復習する（1h2h）。ゼミナールの後、ポイントをノートに整理する。
第22週：企業の社会的責任（CSR） 第3章　企業価値基準の変化　1. CSRと市場 **第23週：企業の社会的責任（CSR）** 第3章　2. SRIにおける企業変化　ESGについて補足する。	教材を熟読し、予習復習する（1h2h）。ゼミナールの後、ポイントをノートに整理する。 2章を要約して提出。
第24週：企業の社会的責任（CSR） 第3章　3. CSR調達 **第25週：企業の社会的責任（CSR）** 第3章　4. 多様な企業価値	教材を熟読し、予習復習する（1h2h）。ゼミナールの後、ポイントをノートに整理する。
第26週：企業の社会的責任（CSR） 第4章　企業とステイクホルダーのコミュニケーション　1. 企業とステイクホルダーとの関係 **第27週：　企業の社会的責任（CSR）** 第4章　2. ステイクホルダー・エンゲージメント	教材を熟読し、予習復習する（1h2h）。ゼミナールの後、ポイントをノートに整理する。 3章を要約して提出。
第28週：企業の社会的責任（CSR） 第4章　3. CSR情報開示の課題 **第29週：企業の社会的責任（CSR）** 第5章　企業の社会貢献活動の広がり　1. 企業の社会貢献	教材を熟読し、予習復習する（1h2h）。ゼミナールの後、ポイントをノートに整理する。
第30週：まとめと面談 卒論の構想を発表、提出。面談（進路）。	4章を要約して提出。

授業の運営方法	（1）授業の形式	「演習等形式」
	（2）複数担当の場合の方式	
	（3）アクティブ・ラーニング	「アクティブ・ラーニング科目」
地域志向科目	カテゴリー Ⅲ：地域における課題解決に必要な知識を修得する科目	
備考		

○単位を修得するために達成すべき到達目標	
【関心・意欲・態度】	現代の会社が抱える課題について、将来の進路と関係させながら考えていく。
【知識・理解】	現代の会社が抱える課題について、基本的知識を学ぶ。
【技能・表現・コミュニケーション】	現代の会社が抱える課題について、主要論点について簡潔にまとめる。
【思考・判断・創造】	現代の会社が抱える課題について、独自の意見を持つようにする。

○成績評価基準（合計100点）			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等（テスト）	レポート・作品等（提出物）	発表・その他（無形成果）	
【関心・意欲・態度】 ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。		10点	10点	
【知識・理解】 ※「専門能力〈知識の獲得〉」を含む。		20点	10点	
【技能・表現・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ】 ※「専門能力〈知識の活用〉」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。		20点	10点	
【思考・判断・創造】 ※「考え抜く力」を含む。		10点	10点	

（「人間力」について）

※以上の観点に、「こころの力」（自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力）と「職業能力」（職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力）を加えた能力が「人間力」です。

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安	
成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等（提出物）	
発表・その他（無形成果）	